



私たちが大切に考える4つの分野

日本と世界を結ぶ

安全・安心

次世代育成

環境

東北コットン
TOHOKU
COTTON
PROJECT



葉が茂り、花も咲いて 東北コットン、すくすく育っています

種をまいたあと気温が上がる季節、綿花は大きく成長します。
今年の夏は、集中豪雨に猛暑と、例年以上の厳しい気候。
各農場も水害に見舞われ、雑草も増殖しましたが、
生産者、チームメンバー、ボランティア総出で間引きや草取りを実施。
綿は実りに向けて成長を続けています。

文/宮川真紀 撮影/中野幸英



東北コットンプロジェクトとは

2011年に始まった東北コットンプロジェクトは綿の栽培、紡績、商品化、販売を参加各社が共同で展開し、農業を通じて東日本大震災の復興を目指すプロジェクトです。被災地の農業法人、アパレル関連企業や団体などが集結し、種まきから草取り、収穫へと試行錯誤しながら綿を栽培しています。そして、東北への想いが込められた「東北コットン」の商品も次々と完成しています。プロジェクトのウェブサイトをご覧ください。

www.tohokucotton.com

種まき後の6月から8月、綿花は背丈を伸ばし、花をつけるまでに一気に育ちます。その間、苗の間引きを行ったり、雑草を取ったり、と手をかけることで綿花の成長を助けます。間引きも草取りも手作業で行う部分が多いため、今年もプロジェクトメンバーや全国のボランティアが大勢集まり、作業を手伝いました。東松島農場で6月末に行われた間引きには、JALグループからも16名が参加。芽吹いた苗から丈夫そうな1本を残して、回りの雑草を抜いていきました。実は、東松島市は津波被害が大きく、綿畑の近くには未だ水没した地域もあり鉄道の復旧も進んでいません。この日、参加者は作業後に被災した沿岸部を見学、復興への思いを強くしたと思います。

一方、荒浜農場では、各地からのボランティアが草取りを支援、学校単位での参加も増えています。昨年から交流を続けている仙台市内陸部の中学校は、この

JAL オリジナル商品も完成!「東北コットン・ポケットチーフ」は2,000マイル、「東北コットン・ベビーグッズ」は1万マイルと交換いただけます。ファッションを通じて東北を応援する「東北コットンプロジェクト」。ぜひ、みなさまもご参加ください。



www.jal.co.jp/jmb/cotton/

夏休みに1・2年生約200名が訪れました。荒浜地区の避難所になった荒浜小学校で津波の痕跡を間近に見たあと、全員で草取りに取り組みました。

こうして各地で栽培に取り組み、梅雨明けの8月には開花を迎えました。真っ白な花がやがてピンクになり、その後コットンボールに。実りの季節ももうすぐです。